

4) 東北地方の越冬地・中継地における海ワシ類の分布および行動パターン

(1) 八郎潟

① 過去9年間の分布と月別出現状況(2004～2013年)

国指定大潟草原鳥獣保護区管理報告書(2004年度4月～2013年度6月)の観察記録を集計・整理し、八郎潟および周辺域におけるオジロワシ・オオワシの分布と月別出現状況を把握した(図2-4-1-1、図2-4-1-2)。

当該観察記録は、調査月や調査区によって調査日数が異なる。そのため、分布図の作成に当たっては、調査区ごとに9年間を通した1調査日当たりの平均個体数を算出し(9年間の総個体数÷9年間の総調査日数)、各月の確認個体数とした。

a) オジロワシ

本種は、毎年11月～3月に当該地域へ飛来し越冬する。1～2羽で確認されることが多いが、まれに4～5羽でいることがある。季節的には11月、2月、3月にやや多く確認されている。地域の中では、八郎潟干拓地西側の五明光、八郎潟調整池東部とその周辺の井川、東部承水路周辺の大潟橋、鹿渡などで見られることが多い。

b) オオワシ

本種は、2004年、2007年および2011年を除き、毎年11月～3月に当該地域へ飛来し越冬する。オジロワシ同様、1～2羽で確認されることが多いが、まれに4～5羽でいることがある。季節的には11～12月に少なく、2月を中心に1～3月にやや多くなる。地域の中では、最も広い開放水面がある八郎潟調整池とその周辺(南部排水機場、船越、一日市)や東部承水路周辺(大潟橋、鹿渡)などで主に見られる。



写真2-4-1-1 オジロワシ(八郎潟調整池、2014年1月27日)

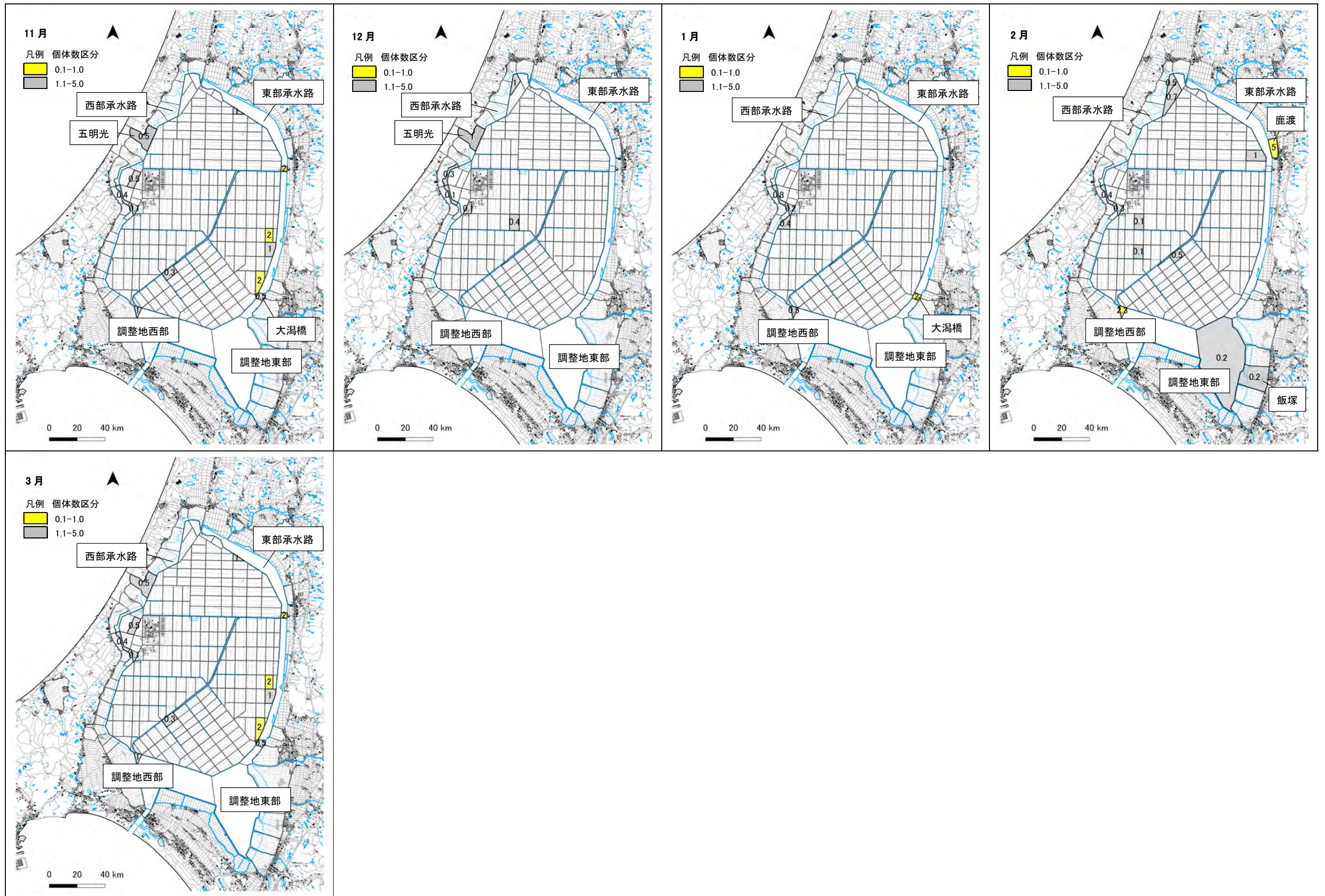


図 2-4-1-1 八郎潟におけるオジロワシの月別確認個体数(2004年11月~2013年3月) (注)確認個体数:9年間を通して算出した調査区ごとの1調査日当たりの平均個体数

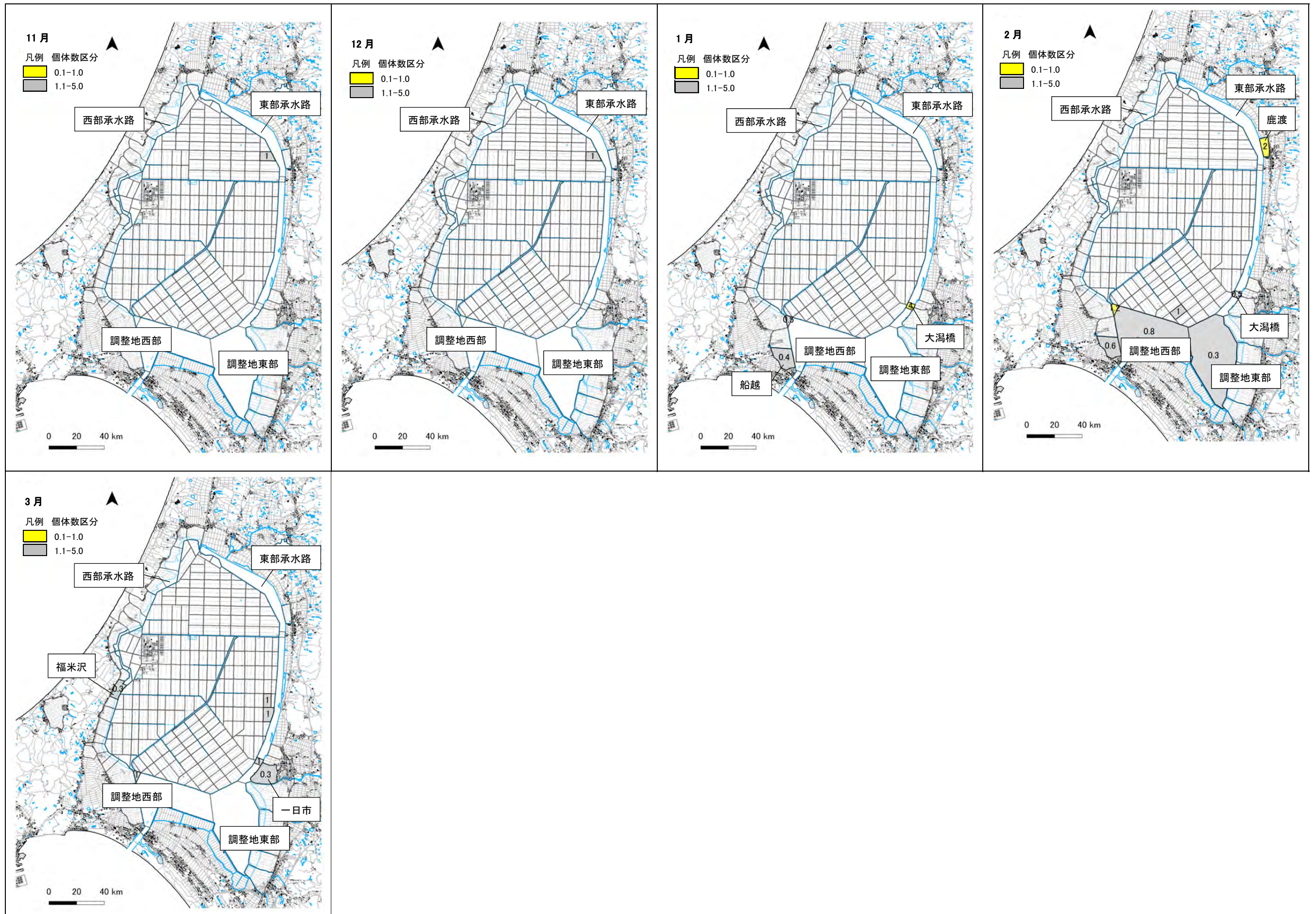


図 2-4-1-2 八郎潟におけるオオワシの月別確認個体数(2004年11月～2013年3月) (注)確認個体数:9年間を通して算出した調査区ごとの1調査日当たりの平均個体数

② 現地調査による分布と利用状況(2013年12月～2014年3月)

八郎潟および周辺域における海ワシ類の分布と利用状況を把握するために、定点調査および踏査を実施した(表2-4-1-1)。このほか、ガンカモ類の調査時に観察された海ワシ類の記録も合わせて取りまとめた。

表2-4-1-1 海ワシ類調査実施状況

時期	内容	方法	調査地点(St)	期間	総時間数
2月	罫入り確認	定点調査	Da, Fg, Sa	2月25日	3:20
3月	行動観察	定点調査	Bd, Ga	2月26日、3月4日	6:24
3月	分布・利用状況	踏査	承水路(全周)	3月3日	5:30
合計					15:14

注)これらの調査のほか、ガンカモ類調査時の記録も合わせて分析した。

a) 月別出現状況

調査期間を通じて観察された海ワシ類は78事例、延べ99個体であった(表2-4-1-2)。両種ともに12月から3月にかけて徐々に事例数(個体数)は増加した。このうち、オジロワシの傾向は先に示した大潟草原鳥獣保護区の結果とよく一致する。また、当該資料では11月に3月と同じような最大羽数が記録されている。12月に急減することから、渡来したオジロワシが八郎潟を中継地利用していることが示唆される。越冬期を通じてオジロワシの方がオオワシより多かった(図2-4-1-3)。

b) 月別分布状況

両種とも八郎潟干拓地を取り囲む承水路および南部に位置する八郎潟調整池で観察されることが多かった。ただし、3月には干拓地内を移動するオジロワシも他期に比べ多く見られた(図2-4-1-4)。

2014年2月25日夕方にはオジロワシ3羽、オオワシ2羽が東部承水路東側の丘陵地の2カ所に罫入りする様子が確認された。罫は採餌場の干拓地に最も近い充実した林地である。

表2-4-1-2 海ワシ類の月別出現状況(2013年12月～2014年3月)

種名		12月	1月	2月	3月	合計
オジロワシ	事例数	3	7	21	24	55
	個体数	3	11	25	36	75
オオワシ	事例数	0	0	6	15	21
	個体数	0	0	6	16	22
海ワシ類sp.	事例数	0	1	1	0	2
	個体数	0	1	1	0	2
合計	事例数	3	8	28	39	78
	個体数	3	12	32	52	99

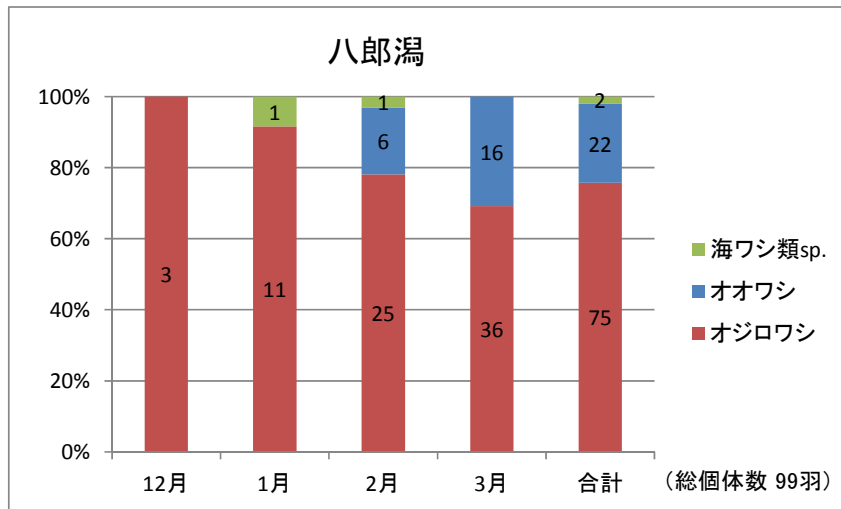
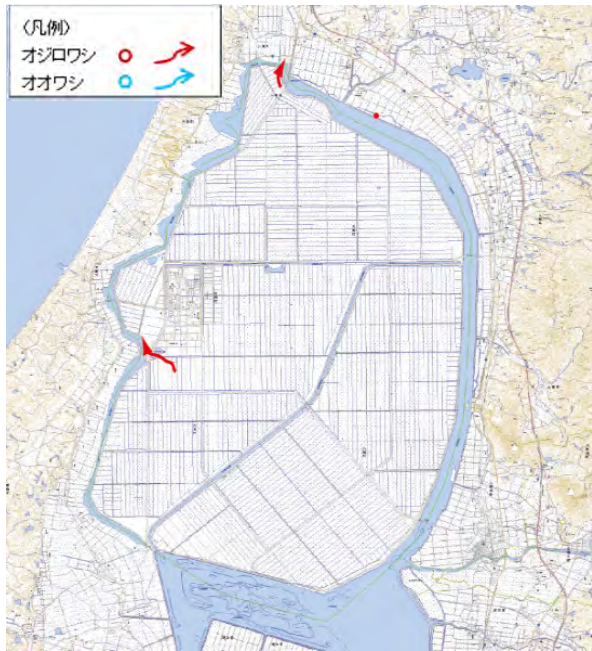
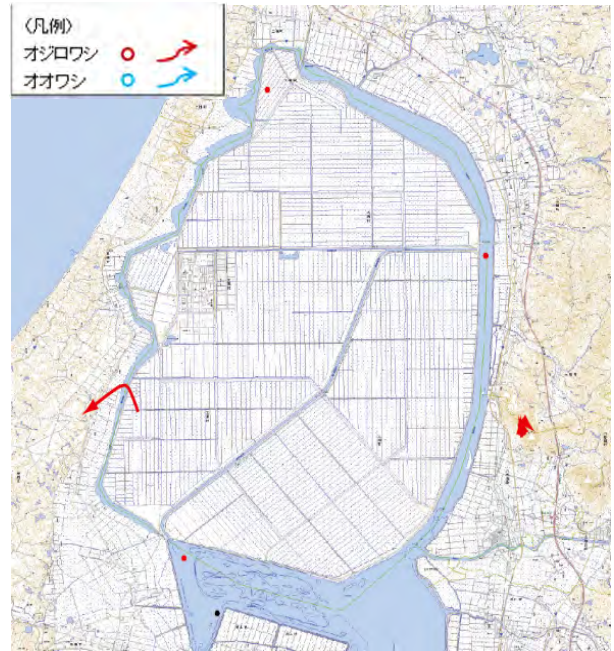


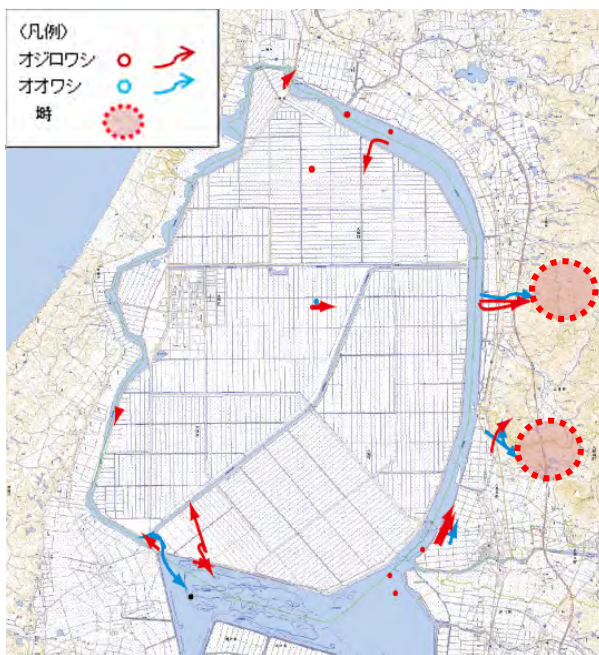
図 2-4-1-3 海ワシ類の種別月別出現割合(2013年12月～2014年3月)



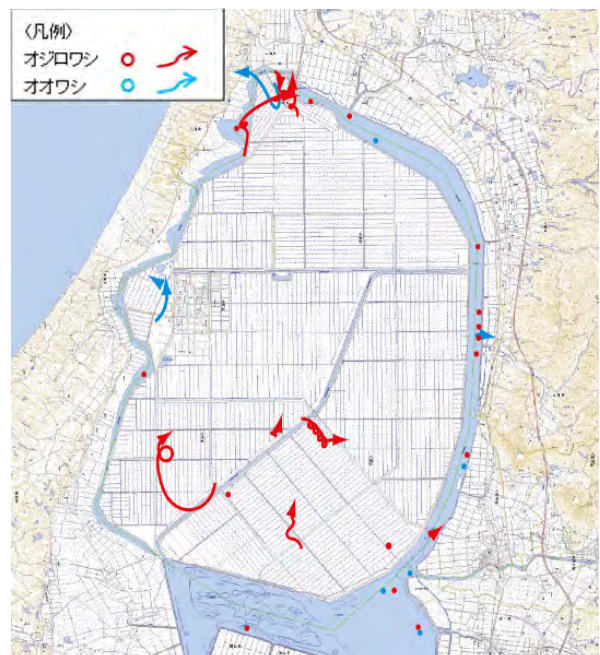
2013年12月



2014年1月



2014年2月



2014年3月

注) 蛸については本調査の中で確認されたものだけを示した。

図 2-4-1-4 八郎潟における海ワシ類の月別分布状況(2013年12月~2014年3月)

c) 承水路における分布状況

2014年3月3日に実施した承水路全周を対象とした踏査によって、東西承水路ならびに干拓地南側の八郎潟調整池で計31羽の海ワシ類（オジロワシ22羽、オオワシ9羽）が記録された（図2-4-1-5）。本調査時点では、分布が東側に片寄っており、東部承水路および調整池で多く観察された。水面の結氷との関係では、全面結氷している個所では記録されなかったものの、0～90%では特に違いは認められなかった。川岸寄りあるいは開水面近くの氷上で休息している個体が多く、複数の個体が集まっている個所も見られた。



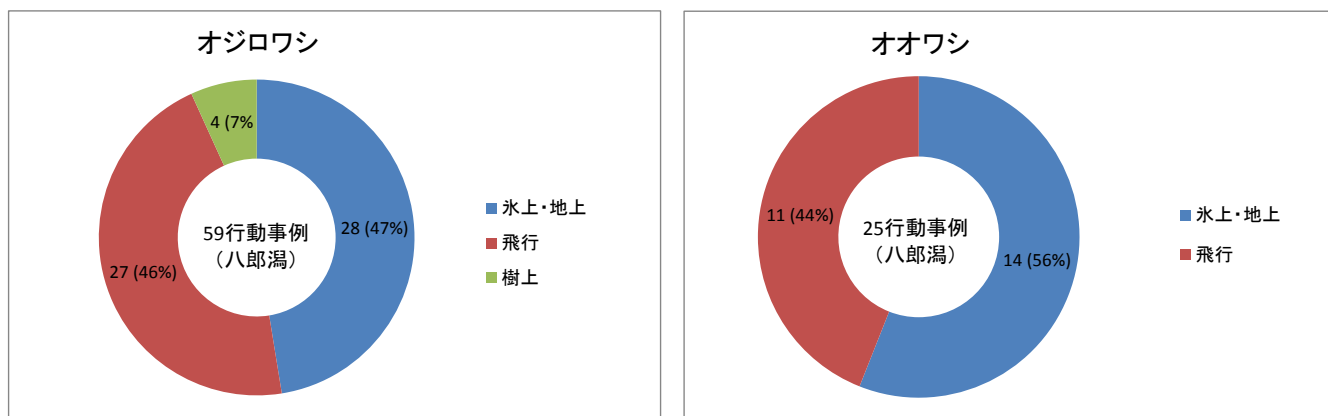
注) 結氷率は承水路・調整池の結氷状況を示したごく概略的なもので、目視で判断した

図 2-4-1-5 八郎潟調整池および承水路における海ワシ類の分布状況(2014年3月3日、10:00～15:30)

③ 行動パターンと飛行高度

a) 行動別事例数の割合

調査期間を通じて観察されたオジロワシ・オオワシの行動別事例を比較したところ、オジロワシでは氷上・地上に降りている事例と飛行中の事例がほぼ同じ割合で見られた。オオワシでは氷上・地上に降りている事例の割合が飛行中のものよりもやや多かった。また、オジロワシでは木に止まっている事例も認められた（図 2-4-1-6）。

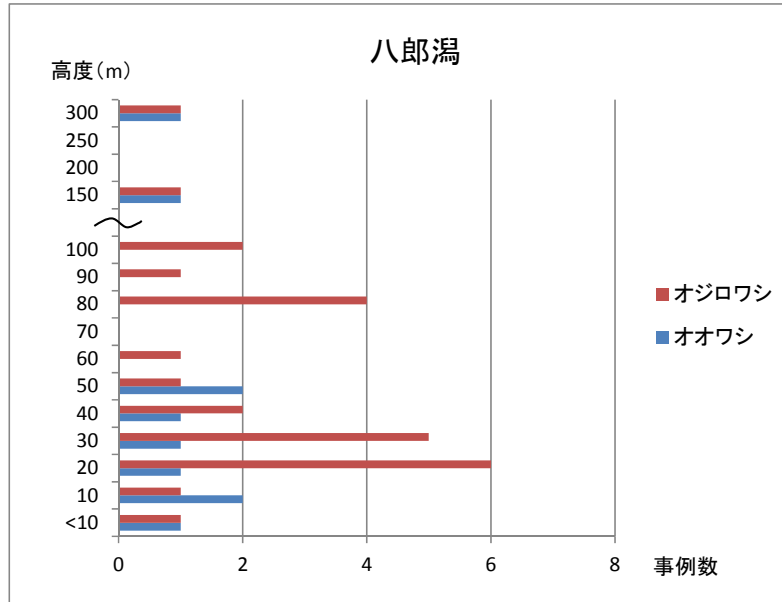


(注)「行動事例数」は観察された行動タイプの延べ数を示す。1回の観察で複数の行動タイプが確認された場合には、すべての行動タイプを行動事例として数えた。

図 2-4-1-6 海ワシ類の行動と事例数(八郎潟、2013年12月～2014年3月)

b) 飛行高度

飛行が確認されたオジロワシ 26 例、オオワシ 10 例について、目測または簡易レーザー測距器を用いて、飛行高度を測定した結果、両種とも地上から高度 300m までの範囲を飛行していた (図 2-4-1-7)。オジロワシでは高度 20~30m と 80m での飛行がやや多かった。



(注) 高度は各事例で記録された最高高度とする。高度不明を除く。

図 2-4-1-7 海ワシ類の飛行高度と事例数(八郎潟、2013 年 12 月~2014 年 3 月)

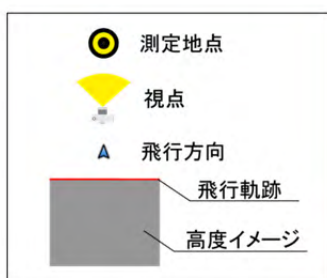
c) 高性能レーザー測距機によるデータ分析結果

八郎潟干拓地の北端部 (B 地区) において、オジロワシ 2 羽の飛行軌跡を高性能レーザー測距器で記録した。水田上空を直線状に、高度をそれぞれ 50~73m、32~57m に保ちながら飛行する様子が示された (図 2-4-1-8、図 2-4-1-9)。

平面図

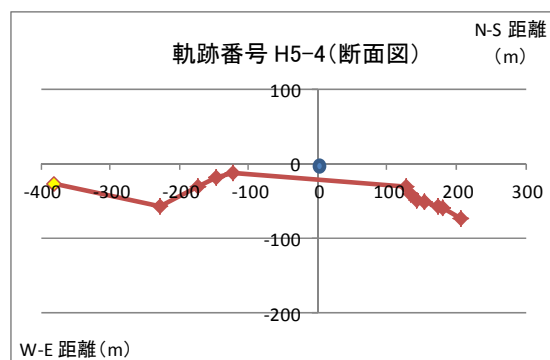
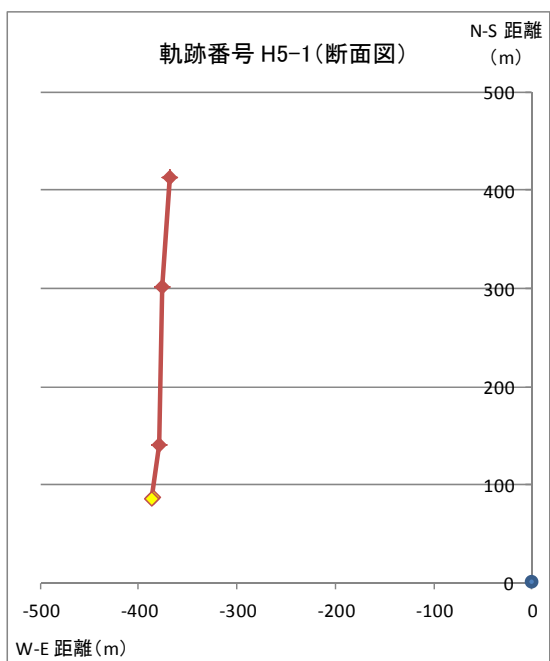
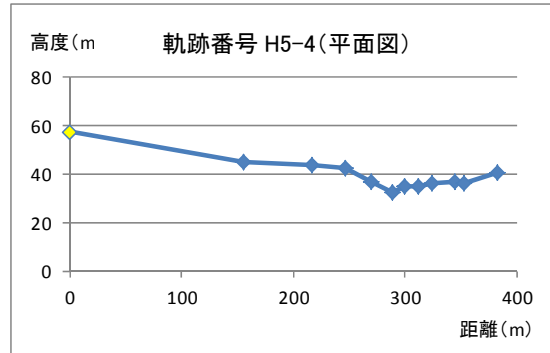
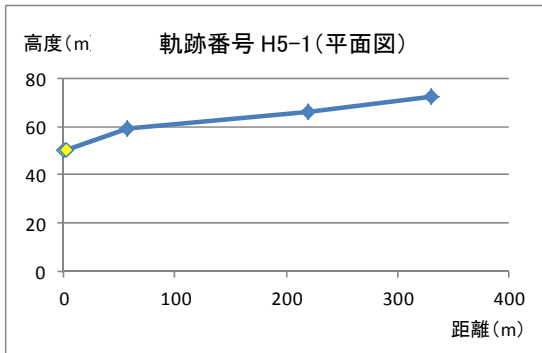


俯瞰図



(2014年3月4日、13:13~14:23)

図 2-4-1-8 干拓地内を移動するオジロワシの飛行軌跡



(注) 黄◇は測定開始点、平面図の青○は測定地点を示す。測定地点を基点として、縦軸(N-S 距離)は南北方向、横軸(W-E 距離)は東西方向への距離を示す。縦軸では+が北、横軸では-が西を指す。

図 2-4-1-9 オジロワシの飛行軌跡(八郎潟、2014 年 3 月 4 日)

(2)十三湖

十三湖とその周辺を対象に、海ワシ類の分布と利用状況、行動パターンと飛行高度について整理した。

① 分布と利用状況(2014年1月・3月)

十三湖および周辺域において、ガンカモ類の調査時に観察された海ワシ類の記録をまとめた(図2-4-2-1)。出現したのはオジロワシ5例(5羽)であり、すべて2014年3月下旬(24日、27～29日)の記録であった。オオワシは観察されなかった。また、地元研究者へのヒアリングの結果、十三湖北東側の丘陵地に海ワシ類の埒があるという情報が得られた。

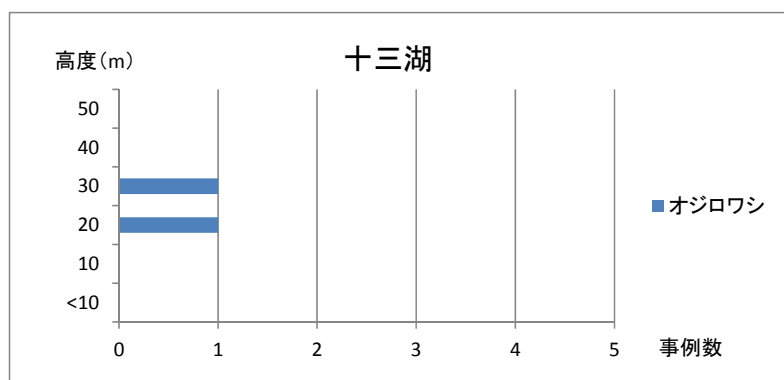


(注)埒の位置は聞き取りに基づく

図 2-4-2-1 十三湖および周辺域における海ワシ類の出現状況(2014年3月)

② 行動パターンと飛行高度

2014年3月下旬に観察されたオジロワシ5羽のうち飛行中の個体は2羽で、高度は目測でそれぞれ20m、30mと推定された(図2-4-2-2)。



(注) 高度は各事例で記録された最高高度とする。

図 2-4-2-2 オジロワシの飛行高度と事例数(十三湖、2014年3月)

(3)小川原湖

小川原湖とその周辺を対象に、海ワシ類の分布と利用状況、行動パターンと飛行高度について整理した。

① 分布と利用状況(2014年1月・3月)

鷹架沼を含む小川原湖一帯において、定点調査および踏査を実施した(表2-4-3-1)。

表2-4-3-1 海ワシ類調査実施状況

時期	内容	方法	調査地点(St)	期間	総時間数
1月	行動観察	定点調査	3(小川原湖)	1月4日	2:20
3月	行動観察	定点調査	4(小川原湖)	3月26日	13:00
3月	行動観察	定点調査	1, 2(鷹架沼)	3月15日、24~25日、29~31日	55:45
3月	分布・利用状況	踏査	小川原湖一帯	3月7・14・23・26日	27:55
合計					99:00

(注)これらの調査のほか、ガンカモ類調査時の記録も合わせて分析した。

a) 種類別出現事例数

ガンカモ類調査時の記録を含め、調査期間を通じて観察された海ワシ類の出現事例は94例であった(表2-4-3-2)。小川原湖、鷹架沼ともに、オジロワシの方がオオワシより多く観察された(図2-4-3-1)。

表2-4-3-2 小川原湖と鷹架沼における海ワシ類の出現事例数(2014年1月・3月)

調査地	種名	1月	3月	合計
小川原湖	オジロワシ	3	10	13
	オオワシ	0	2	2
鷹架沼	オジロワシ	0	54	54
	オオワシ	0	24	24
	海ワシ類sp.	0	1	1
合計	オジロワシ	3	64	67
	オオワシ	0	26	26
	海ワシ類sp.	0	1	1

(注)2014年2月は両湖沼とも結氷中だったため、現地調査を実施しなかった。

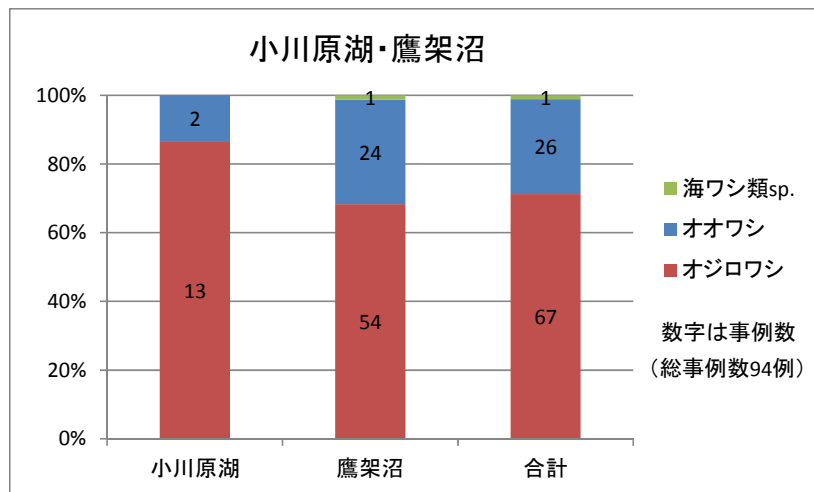


図 2-4-3-1 海ワシ類の種別出現割合(2014年1月・3月)

b) 出現状況

小川原湖とその近くに位置する鷹架沼において定点調査を実施した。2014年3月26日の小川原湖南部の定点では、オジロワシが湖面上の一部に集中している様子が認められた(図 2-4-3-2)。鷹架沼では3月中～下旬に複数回の観察を行ったが、解氷が進んでいるため、水面上を採餌のために飛行する事例が多くなっている。飛行全体に東から西に向かう傾向がみられた(図 2-4-3-3)。

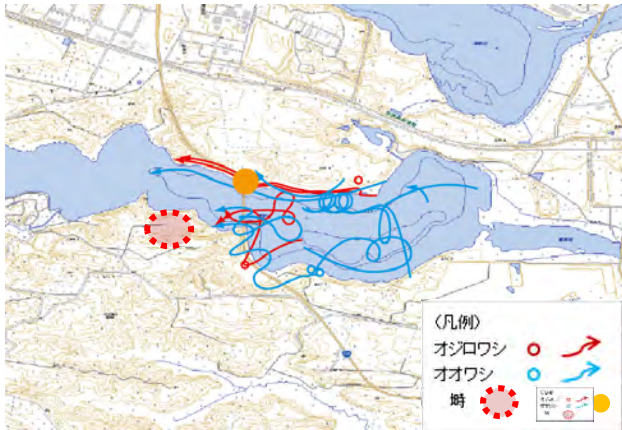
小川原湖南西部および鷹架沼南岸の林地に1カ所ずつ罅が確認され、鷹架沼では罅入りするオジロワシ4羽が2014年3月29日に観察された。両地域においても、採餌場と罅は接近していた。



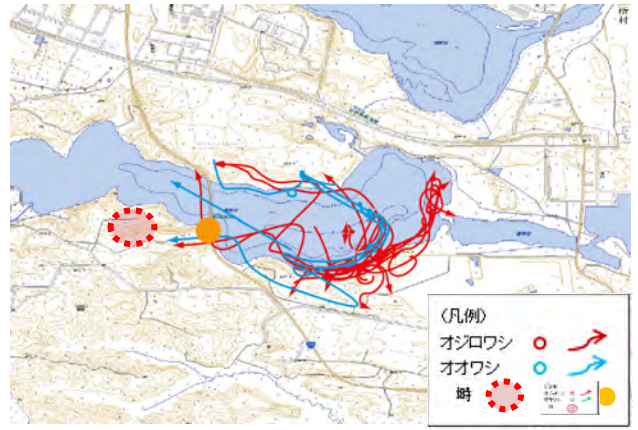
2014年1月4日(14:50~17:25)

2014年3月26日(9:45~18:00)

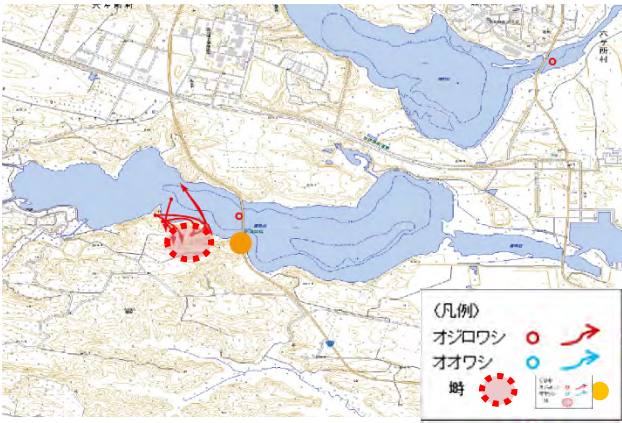
図 2-4-3-2 小川原湖における海ワシ類の飛行軌跡



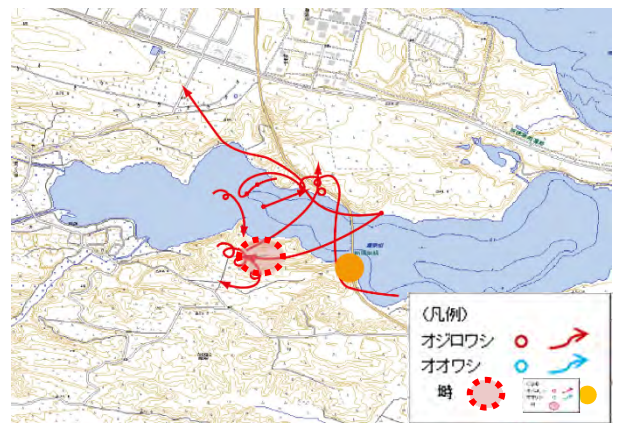
2014年3月15日(5:30~18:00)



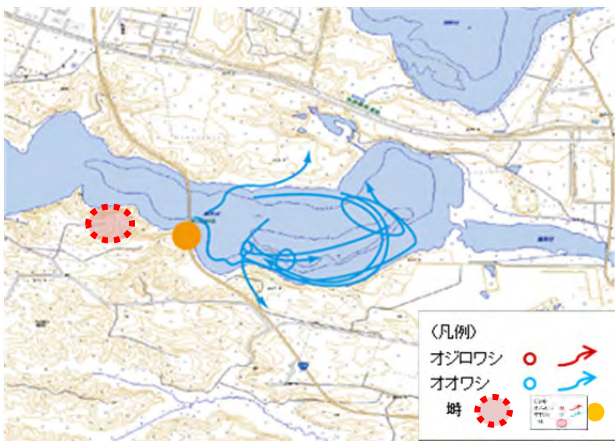
2014年3月24日(5:30~17:40)



2014年3月29日(16:25~18:00)



2014年3月31日(5:30~11:20)



2014年3月25日(5:00~18:10)



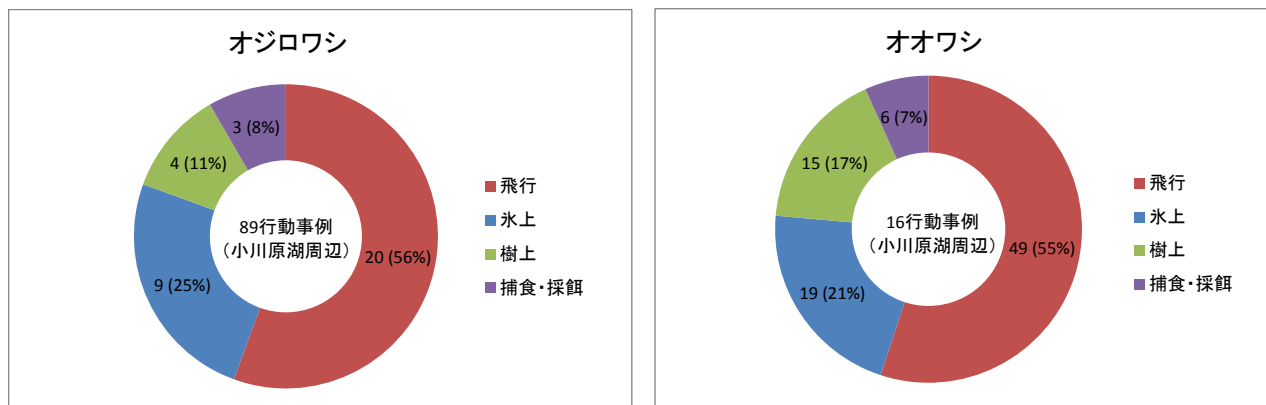
2014年3月30日(5:20~9:00)

図 2-4-3-3 鷹架沼における海ワシ類の飛行軌跡

② 行動パターンと飛行高度

a) 行動別事例数の割合

調査期間を通じて観察されたオジロワシ・オオワシの行動別事例数を比較したところ、両種ともに飛行中の事例が半数以上と最も多く、次いで氷上、樹上の事例が多かった（図2-4-3-4）。2014年3月に長時間の定点調査を実施した関係で、捕食・採餌関連の行動も両種で見られた。



(注)「行動事例数」は観察された行動タイプの延べ数を示す。1回の観察で複数の行動タイプが確認された場合には、すべての行動タイプを行動事例として数えた。

図2-4-3-4 海ワシ類の行動と事例数(小川原湖・鷹架沼、2014年1月～3月)

b) 採餌行動

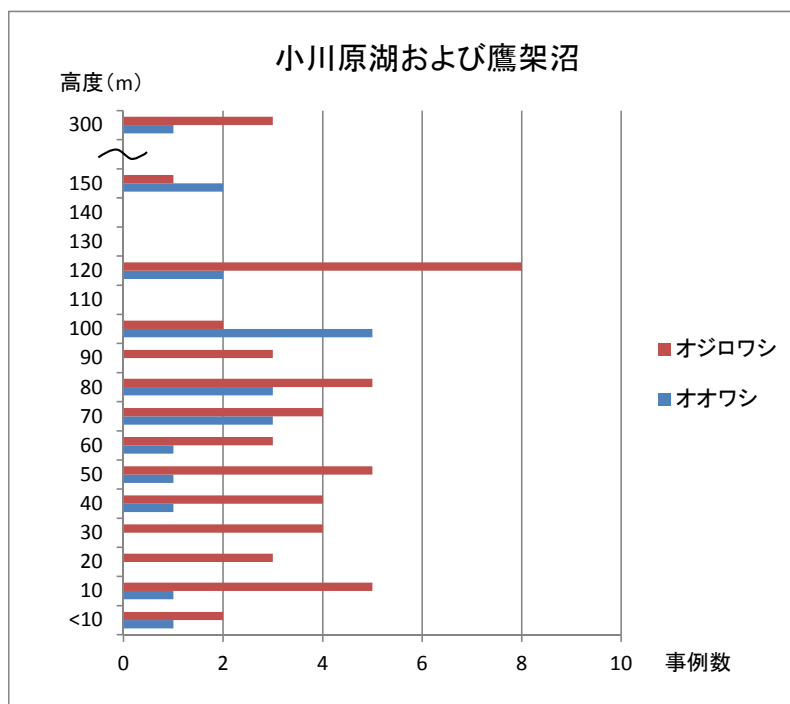
2014年3月の定点調査時にオジロワシ・オオワシの採餌行動が観察された(表2-4-3-3)。氷上で魚類を食していたほか、カワウを捕えたり、カモ類やカモメ類を追いかけるなど、水鳥も餌対象としている様子が認められた。

表2-4-3-3 海ワシ類の捕食・採餌関連の行動事例(2014年3月)

年月日	初認時刻	種名	個体数	齢	行動	飛行高度(m)
2014/3/15	9:10	オジロワシ	1	幼鳥	カモメを追いかける	0-50
2014/3/24	9:23	オジロワシ	1	成鳥	氷上で魚を採餌する	0
2014/3/24	13:20	オジロワシ	1	成鳥	カワウを捕まえるが逃げられる	0-5
2014/3/24	15:00	オジロワシ	1	成鳥	氷上で採餌、マツに止まる	0
2014/3/25	5:30	オオワシ	1	幼鳥	魚をミサゴと奪い合う	0-80
2014/3/25	6:20	オオワシ	1	幼鳥	魚を他のオオワシと奪い合う	-
2014/3/26	9:45	オオワシ	1	幼鳥	カモの群れを追いかける	0-5
2014/3/29	16:30	オジロワシ	1	幼鳥	採餌中	0-40
2014/3/29	16:25	オジロワシ	1	幼鳥	氷上で魚を採餌する	0

c) 飛行高度

飛行が確認されたオジロワシ 52 例、オオワシ 21 例について、目測または簡易レーザー測距器を用いて飛行高度を測定した結果を図 2-4-3-5 に示す。両種とも地上から高度 300m までの範囲を飛行していたが、120m までの飛行が大部分を占めた。



(注) 高度は各事例で記録された最高高度とする。高度不明を除く。

図 2-4-3-5 海ワシ類の飛行高度と事例数(2014 年 3 月)

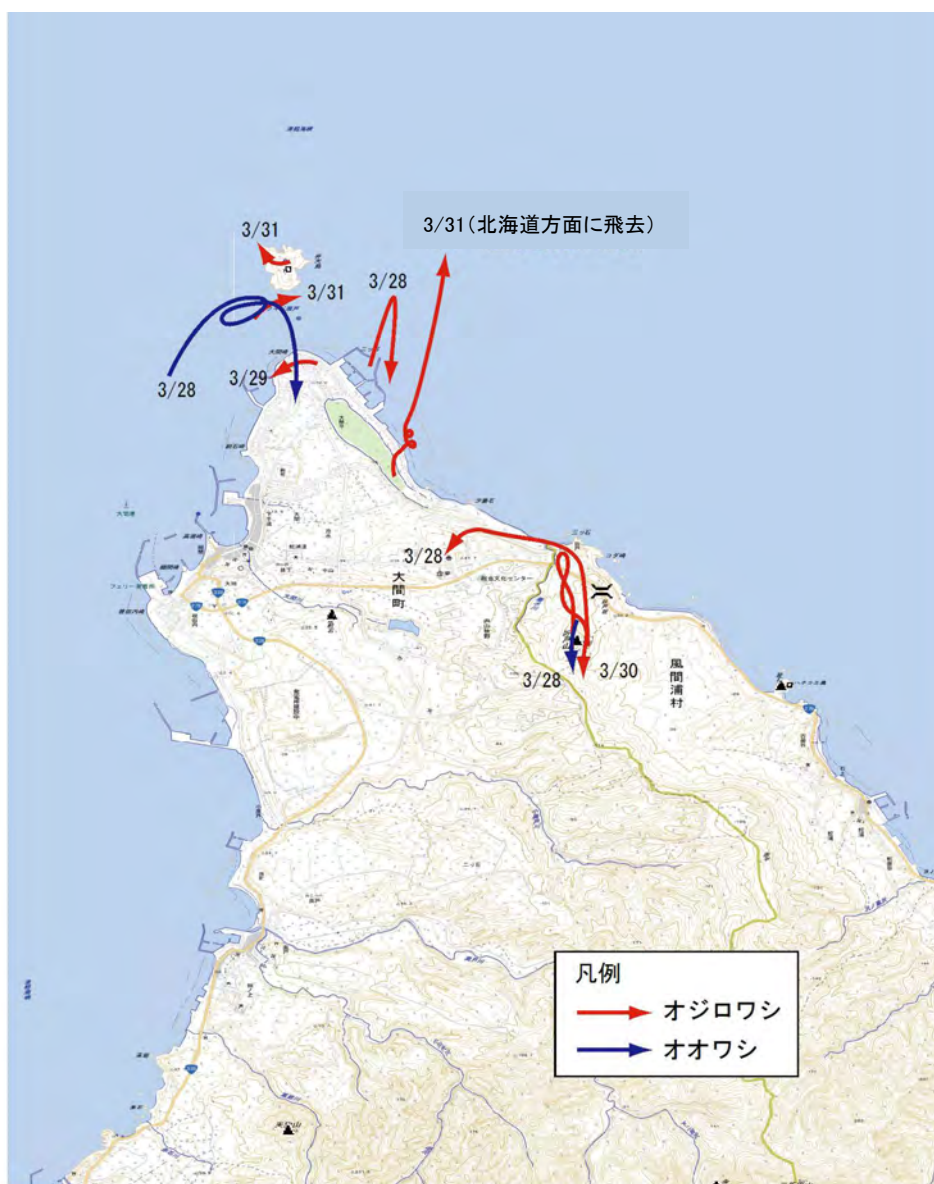


写真 2-4-3-1 ①オオワシ若鳥(小川原湖、2014年3月26日)
②オジロワシ成鳥(鷹架沼、2014年3月15日)
③オジロワシ成鳥(鷹架沼、2014年3月31日)

(4)大間崎

① 出現状況(2014年3月)

海ワシ類の渡り経路を確認するため、2014年3月20～21日、28～31日に大間崎先端部で終日定点調査を実施した(総時間数:111時間25分)。その結果、3月28～31日に海岸沿いで9例(オジロワシ7例、オオワシ2例)の飛行が観察され、3月31日には北海道方面に飛去するオジロワシの渡りが1例確認された(図2-4-4-1)。



(2014年3月20～21日、28～31日)

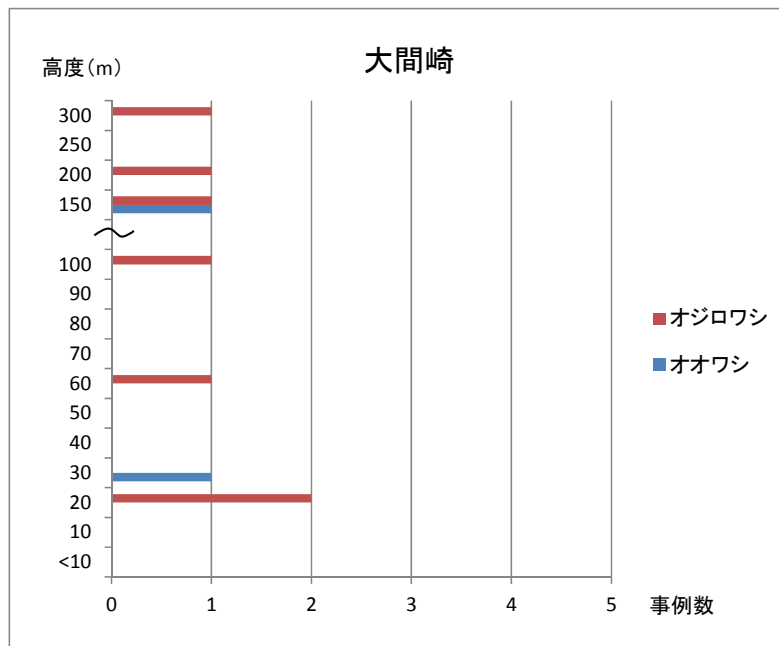
図2-4-4-1 大間崎における海ワシ類の出現状況



写真 2-4-4-1 大間崎先端部((2013年3月20日)

② 飛行高度

大間崎で観察された海ワシ類 9 例の飛行高度を目測で記録した(図 2-4-4-2)。その結果、高度 20~300m の範囲で飛行が確認されたが、他の調査地に比べ高度 100m 以上での記録が多かった。渡りに関係する動きと推定される。一方、北海道方面への渡りが確認されたオジロワシ 1 羽の飛行高度は、陸上で記録された 20m から海上の 60m までであり、渡り始めは高高度の飛行ではなかった。



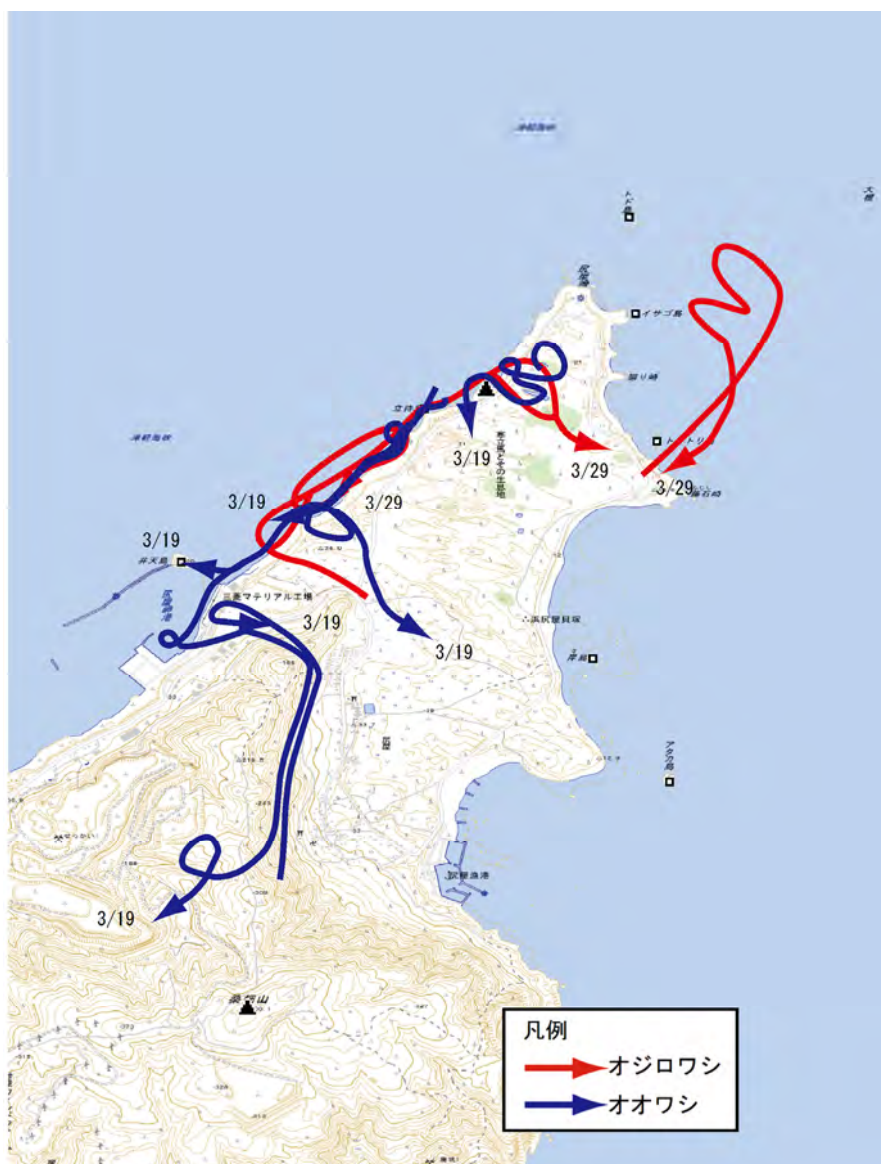
(注) 高度は各事例で記録された最高高度とする。

図 2-4-4-2 海ワシ類の飛行高度と事例数(2014年3月)

(5) 尻屋崎

① 出現状況(2014年3月)

海ワシ類の渡り経路を確認するため、2014年3月18～19日、28～31日に尻屋崎先端部で終日定点調査を実施した(総時間数:60時間2分)。その結果、3月19日、29日に海上や丘陵上を含め、海岸沿いで9例(オジロワシ3例、オオワシ6例)の飛行が観察された(図2-4-5-1)。この中には、樹上や岩上での記録が各々1例ずつ含まれる。



(2014年3月18～19日、28～31日)

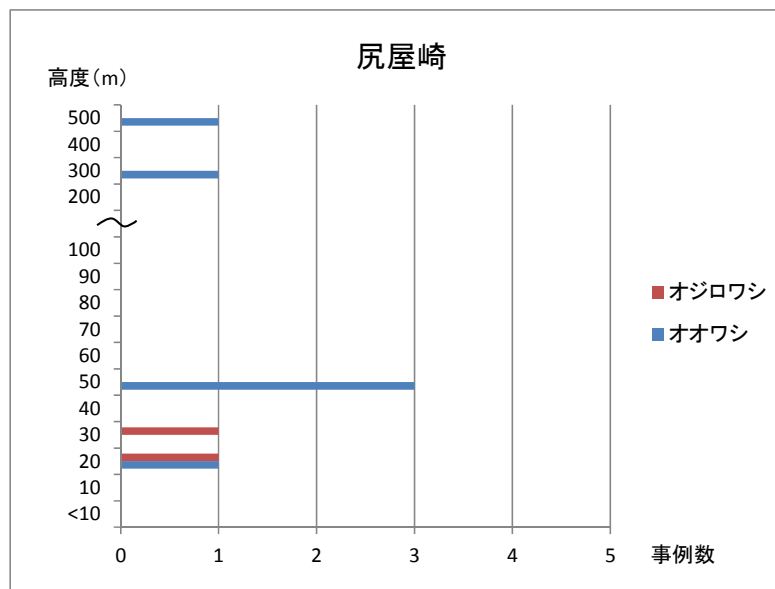
図 2-4-5-1 尻屋崎における海ワシ類の出現状況



写真 2-4-5-1 尻屋崎先端部((2013年3月29日)

② 飛行高度

2014年3月下旬に飛行が確認されたオジロワシ2例、オオワシ6例の目測による飛行高度を図2-4-5-2に示す。高度20~50mおよび300~500mの範囲で飛行しており、大間崎同様、他の調査地より高高度の飛行が多く記録された。渡りに関連した飛行と考えられる。



(注) 高度は各事例で記録された最高高度とする。高度不明を除く。

図 2-4-5-2 海ワシ類の飛行高度と事例数(2014年3月)

(6) 三沢～田野畑(太平洋沿岸)

東北地方における海ワシ類の生息・分布調査の中で、過去に生息記録のなかった太平洋沿岸域の青森県三沢市から岩手県田野畑村にかけて、2014年3月28～29日に現地踏査を実施した。車両で移動しながら、見晴らしの良い地点に簡易定点を設け(41カ所)、各15分程度の観察を行った(総時間数:10時間40分)。その結果、海ワシ類の生息は確認されなかった(図2-4-6-1)。



図 2-4-6-1 三沢～田野畑における海ワシ類の出現状況(2014年3月28～29日)